

持続社会を支える人々の繋がりを整える

46 地域活動を持続可能にする体制をつくる

住民や自治体などのステークホルダーが、伝建地区の地域づくりにおいて円滑な連携を図れるように嘉右衛門町門地区ではプロジェクト参画組織やプロジェクトに近い協力者である行政担当者、住民、技術者らが中心となり、2013年度に「嘉右衛門町伝建地区まちづくり懇談会」を結成し、2014年度に「嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会」が設立され、嘉右衛門町地区の保存や活用に取り組む官民一体組織が生まれた。これにより、自治会間や住民と行政が協議する場ができ、持続的に地域活動を推進する組織ができた。この協議会では、地域住民のほか、行政担当者や市議会議員、職人、観光ボランティアの代表者らが参画し、まちづくり勉強会や町並み塾などの定期的な開催を通して、地区内外の市民に対するアウトリーチ活動を推進している。また、来訪者へのホスピタリティも意識して環境美化活動を励行している。

一方、高校生の小論文コンクールを通じて築かれた他校の同志や地域との繋がりによって、まちづくりサークル「高校生蔵部」が誕生し、次代の担い手として期待される高校生による自発的なまちづくりや地域おこし活動が展開されるようになった。様々な高校に属する入選者たちが創部当初のコアメンバーとなり、蔵の街かど映画祭や防災イベント、ボランティア活動など大いに活躍の場を広げた(写真1)。活動内容については、とちぎ高校生蔵部 Facebook ページ (<https://www.facebook.com/tochigi.thc>) で紹介されているので参照されたい。これらの活動は、高校生自身が小論文の中で提案した企画と合致し、高校生にとって得難い成功体験となったと考えられる。最近では、高校生の視点によるおススメスポットや高校生の居場所を紹介する「栃木の街 散策マップ」(図1)を作成し、市内の各所で配布するなどの活動も行っている。



写真1 栃木高校生蔵部



図1 栃木の街 散策マップ

建造物の災害回復力強化を目指した技術者や技能者同志のネットワークの面については、栃木市では既に伝統技術の研鑽と担い手育成を目的とした職人集団「とちぎ蔵の街職人塾」が活動していたが、桐生市桐生新町伝建地区で「桐生重伝建修習の会」が発足し、町並みを守る技術者や技能者を自分のまちで育成していこうとする体制ができた。近隣地域の連携としては、同じ職能同志を繋ぎ、多重のセーフティネットを構築することで災害回復力の強化を図る取組みを継続するために、栃木市・桜川市・桐生市の行政伝建担当部局や建築士、

職人のそれぞれの主要者によって構成する「北関東歴史まちづくり検討会」を始動し、地域間さらに立場の異なるアクターとの間で、まちづくりの推進に向けた情報交換と情報共有が進められている。

以上のように、多主体の活動によって持続的に地域を見守る組織ができ、体制づくりが進み、地域の人々の意識がパッシブからアクティブへ変容している様子があらわれている。ここで紹介したまちづくり協議会や蔵部は、どちらも運営をサポートしているのが栃木市都市計画課や栃木市生涯学習課であり、高校生や地域と自治体の協働によって持続可能な体制を築くことができている。しかし、言い換えると、行政の支援が無ければ持続が困難な可能性もある。実際に地域住民らの行政への依存性は高く、住民らの自主的なまちづくりを行政が支援するような連携関係を構築することが理想だが、まだそこまでには到達していない。その背景には、地域で多主体によって行われている地域活動の内容が個人や組織の関心によって偏りが見られることや、それら活動も含めて地域に関する情報が一元化されていないために、相談ごととはまずは役所に見てみるという系譜が根付いてしまっていることなどが挙げられる。

そこで、地域内で本研究プロジェクトを契機に始動した活動を継続可能なものにし、住民ら主体による総合的かつ組織的な地域活動を推進する次のステージに向けて、歴史的建造物の活用や地域防災活動、町並みデザイン、ワークショップ等のみんなで考える場の創出など、のエリアマネジメントを担う組織づくりに向けた検討に着手した。ここでは将来的に地域住民主体の体制に昇華させることを目指し、住民らの積極参画による地域づくりを推進するための黒子や橋渡しを担う組織の立ち上げを視野に協議を進めた。本研究プロジェクトで信頼関係を築いた空き家対策、地域防災、修理修景、町家の再生活用、魅力創出などの分野に長けたメンバーで定例会合を開き、意見交換を重ね、まずは慎重にメンバー内で方向性を取れんさせてきた。そして、『とちぎ町並みデザイン研究会 KURANE(くらね)』を立ち上げた。「くらね(くらねえ)」とは、栃木市周辺(特に都賀・西方方面)の方言で「大丈夫だよ」というお互いを思いやる温かい意味があることにちなんで名付けた。同会は、社会的信頼のもとで活動を推進すべくNPO法人化の準備を進めている。現在は、情報誌「でんけん」に図2のような記事を掲載して、会に対する認識を高めてもらうことと、地域からの相談を受け付けている。また、空き家となっている見世蔵を借りて定例会合を開催し、夜になると街灯以外の灯りが無くなる町並みに一点の灯りをともし、仲間が増えていくことを期待しながら議論を重ねている(写真2)。さらに、主要メンバーによって八女市を視察し、NPO等によるまちづくりや町家の活用手法などを地域の方々にご教授いただきノウハウの蓄積を進めた(写真3、4)。

とちぎ町並みデザイン研究会
KURANE(くらね)

JSTプロジェクトで繋がった人々と共に、歴史的な建物が残るマチでの暮らしをサポートする「とちぎ町並みデザイン研究会KURANE(くらね)」を立ち上げました。「くらね」とは、栃木市でも特に都賀・西方方面の方言で「大丈夫」という意味があるそうです。嘉右衛門町伝建地区周辺にお住いの方で、次のようなことでお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

■相談窓口

0282-28-6580(小山高専サテライトキャンパス内)
0285-20-2837(小山高専横内研究室)
kuraneyo@gmail.com

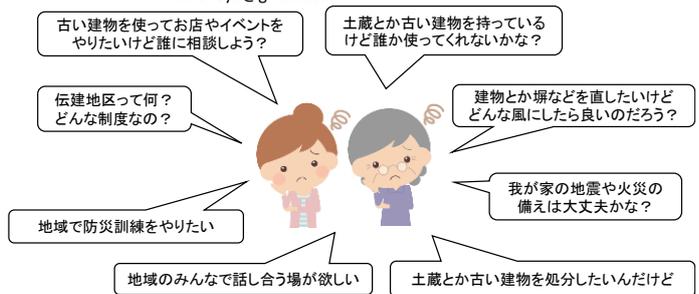


図2 KURANE の紹介記事



写真2 KURANE の定例会合



写真3 NPO 八女空き家再生スイッチ
中島氏との意見交換



写真4 うなぎの寝床の
白水代表との意見交換